

ビジネスゲームM-Cass日商簿記検定2級対策講座

簿記検定2級工業簿記基礎力構築講座

工業簿記編

第2章:個別原価計算と総合原価計算の計算原理を理解しよう



本講義の目的

- 1、総合問題における資料の見方を理解する。
- 2、総合問題における解き方の流れを理解する。

目 次

第2章：総合問題対処法

1、はじめに	P3
2、基本例題Ⅱ－1(工業簿記の総合問題その1)	P3
3、基本例題Ⅱ－2(工業簿記の総合問題その2)	P6
4、基本例題Ⅱ－3(工業簿記の総合問題その3)	P8
5、本試験の出題パターン	P10
6、基本例題Ⅱ－4(理解することの意味)	P11
7、コラム「時間はビジネスを制する」	P16

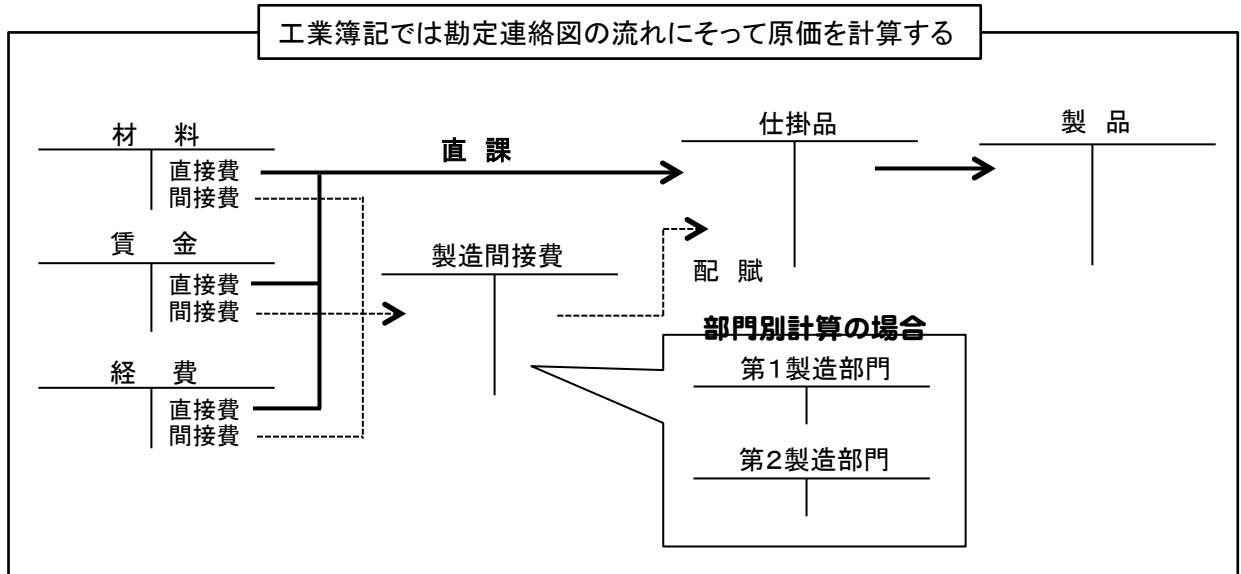
<工業簿記・原価計算編>

第2章:工業簿記・原価計算の学習方法

1、はじめに

工業簿記の学習については、「勘定連絡図の流れ」をおさえるようことが大切でした。

特に、問題では①製品原価の計算と②勘定記入の2つが問われます。そして、製品原価の計算は勘定連絡図の流れに沿って計算をします。このため、工業簿記をマスターするコツは勘定連絡図の流れをしっかりと頭に入れるということになります。



2、工業簿記の総合問題対処法

1級の工業簿記で最初にぶつかる壁が、工業簿記の総合問題だと思えます。問題の資料を読んでも文字や数字が多く、どこを読んで、どこから解いていっていいのかわからなくなりますよね。工業簿記の総合問題を解くにあたってのポイントは、「勘定連絡図の流れをイメージしながら問題の資料を読む」ということです。

先ほど上述しましたように、工業簿記は勘定連絡図の流れにそって製品原価の計算を行い、帳簿に記入していきます。このため、工業簿記の問題を解くときにも勘定連絡図の流れをイメージしながら問題の資料を読み、その流れに沿って解いていくことになります。それでは、ここで実際の総合問題でこのことをみてみましょう。

基本例題Ⅱ-1

<工業簿記の総合問題その1>

当社は造船業を営んでいる。当月に入り、豪華客船1隻の注文を受けた。

よって、下記資料に基づき、以下の問に答えなさい。

問1：仕掛品勘定を記入しなさい。

問2：豪華客船の製造原価はいくらになるか計算しなさい。

(資 料)

1、材料費の計算

(1) 主要材料の購入及び消費は以下のとおりであった。

- ・前月繰越分 20 kg 単価 100 円
- ・当月購入分 80 kg 単価 125 円
- ・当月消費量 70 kg 単価 ? 円
- ・月末実地棚卸数量 28 kg

なお、主要材料の消費額の計算は継続記録法による平均法によって行なう。
また、棚卸減耗は正常な範囲であった。

(2) 補助材料の購入及び消費は以下のとおりであった。

- ・前月繰越分 200 円
- ・当月購入分 800 円
- ・次月繰越分 500 円

なお、補助材料の消費額の計算は棚卸計算によって行なう。

2、労務費の計算

直接工の賃金支払い及び消費額は以下のとおりであった。

- ・当月の賃金支払いは、賃金支給総額 7,100 円、所得税控除額 200 円、社会保険料控除額 700 円であった。
- ・前月末払分 400 円、当月未払分 500 円がある。
- ・当月の直接工の作業時間の内訳は以下のとおりである。
直接作業時間：8 時間 間接作業時間：2 時間

3、その他の費用の計算

上記以外にも以下のような費用がかかった。

- ・外注加工賃（前月末払額 200 円、当月支払額 800 円、当月未払額 100 円）
- ・工場建物減価償却費年間予定総額 9,600 円

なお、製造間接費の配賦計算は実際配賦の方法によること。

<解答欄> 問1

仕 掛 品

材 料 ()	製 品 ()
賃 金 ()	
経 費 ()	
製造間接費 ()	

問2 豪華客船の製造原価

	円
--	---

【解答】問1

仕掛品

材 料 (8, 4 0 0)	製 品 (1 7, 8 4 0)
賃 金 (5, 7 6 0)	
経 費 (7 0 0)	
製造間接費 (2, 9 8 0)	

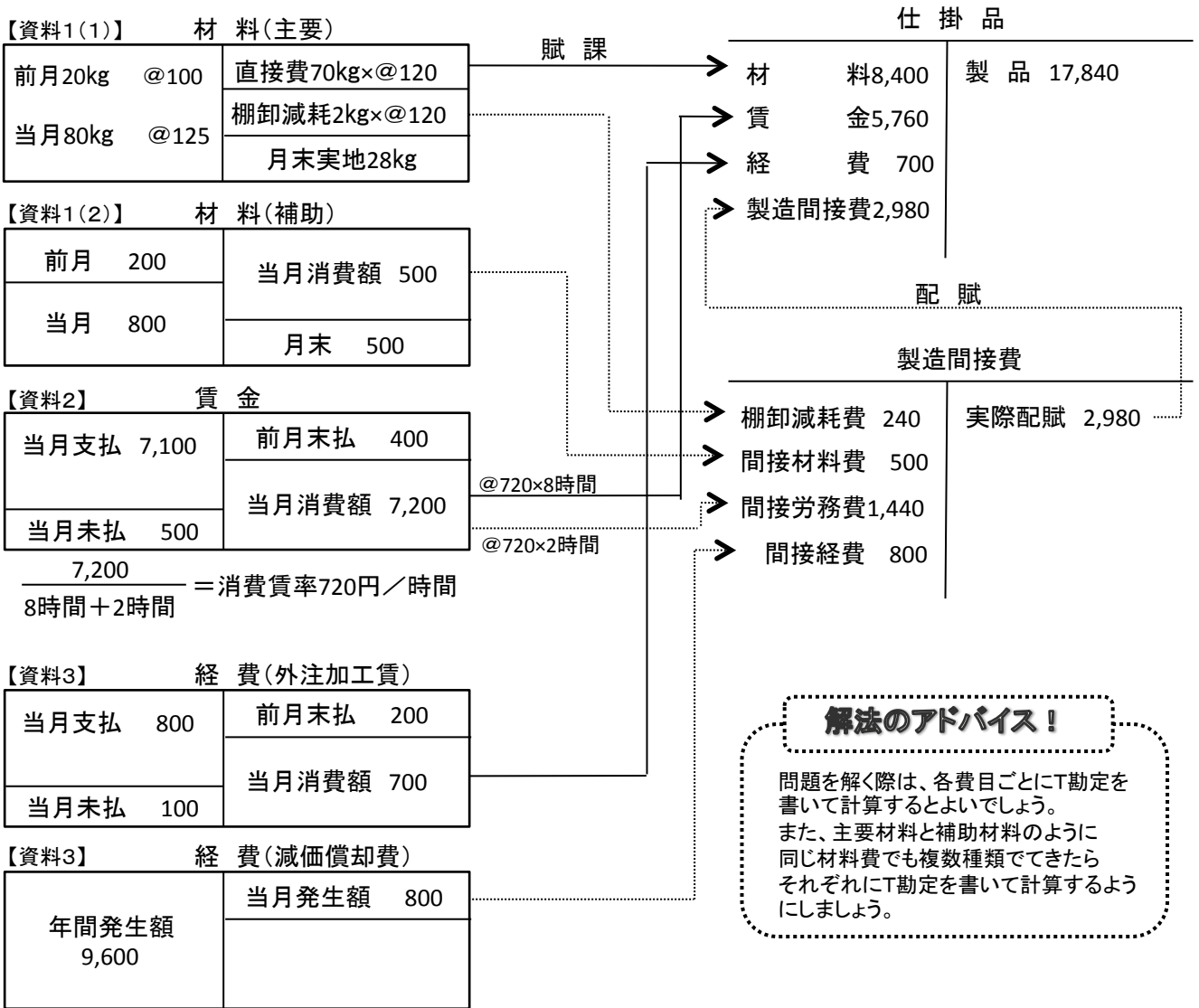
問2 豪華客船の製造原価

17,840 円



【解説】

日商簿記検定1級の工業簿記・原価計算の問題では、総合問題という形式で出題されます。総合問題を解くにあたり、まず、ポイントとなる点は「勘定連絡図の流れと問題の資料をリンクさせて読む」ということです。問題の資料を漫然と読んだだけでは、どこから計算してよいのか分からなくなります。そこで、問題の資料と勘定連絡図の流れをリンクさせて読む必要があるのです。このことにより、どの資料が勘定連絡図のどの部分のことをいっているのかが分かるようになります。そして、流れに沿って材料費から計算していくわけです。



当社は造船業を営んでおり、今月において戦艦大和及びタイタニック号の製造受注をうけた。よって下記資料に基づき、以下の問に答えなさい。なお、当社では個別原価計算を採用している。

問1：仕掛品勘定を記入しなさい。問2：原価計算表を作成しなさい。

(資料)

1、材料費の計算

(1) 主要材料の購入及び消費は以下のとおりであった。

- ・前月繰越分 20 kg 単価 100 円
- ・当月購入分 80 kg 単価 125 円
- ・当月消費量 70 kg 単価 ? 円
- ・月末実地棚卸数量 28 kg

なお、主要材料の消費額の計算は継続記録法による平均法によって行なう。また、棚卸減耗は正常な範囲であった。

(2) 補助材料の購入及び消費は以下のとおりであった。

- ・前月繰越分 200 円
- ・当月購入分 800 円
- ・次月繰越分 500 円

なお、補助材料の消費額の計算は棚卸計算によって行なう。

2、労務費の計算

直接工の賃金支払い及び消費額は以下のとおりであった。

- ・当月の賃金支払いは、賃金支給総額 7,100 円、所得税控除額 200 円、社会保険料控除額 700 円であった。
- ・前月末払分 400 円、当月未払分 500 円がある。
- ・当月の直接工の作業時間の内訳は以下のとおりである。
直接作業時間：8 時間 間接作業時間：2 時間

3、その他の費用の計算

上記以外にも以下のような費用がかかった。

- ・外注加工賃の当月消費額 700 円であり、製造指図書 # 1 の製造のために消費したものである。
- ・工場建物減価償却費年間予定総額 9,600 円

なお、製造間接費の配賦計算は機械作業時間を配賦基準とする実際配賦の方法によること。

4、各製造指図書における直接材料消費量、直接作業時間及び機械作業時間は以下のとおりである。

	# 1 (戦艦大和)	# 2 (タイタニック号)	# 2-1	合計
直接材料消費量	30 kg	30 kg	10 kg	70 kg
直接作業時間	3 時間	3 時間	2 時間	8 時間
機械作業時間	5 時間	3 時間	2 時間	10 時間

(注) 両指図書とも当月から作業を開始しているが、# 1 の製品については当月未完成であり残りは当月につき完成している。また、# 2 についてはその一部が仕損となり、補修指図書 # 2-1 を発行して補修した。当該仕損は正常なものであり、指図書 # 2 に賦課する。

【解答欄】 問1

仕 掛 品	
材 料 ()	製 品 ()
賃 金 ()	仕 掛 品 ()
経 費 ()	次 月 繰 越 ()
製造間接費 ()	
仕 掛 品 ()	

問2 原価計算表

	# 1	# 2	# 2 - 1	合 計
直接材料費				
直接労務費				
直接経費				
製造間接費				
小 計				
仕損費				
合 計				
備 考				

【解 答】問1

仕 掛 品	
材 料 (8,400)	製 品 (9,890)
賃 金 (5,760)	仕 掛 品 (3,236)
経 費 (700)	次 月 繰 越 (7,950)
製造間接費 (2,980)	
仕 掛 品 (3,236)	

問2 原価計算表

	# 1	# 2	# 2 - 1	合 計
直接材料費	3,600	3,600	1,200	8,400
直接労務費	2,160	2,160	1,440	5,760
直接経費	700	—	—	700
製造間接費	1,490	894	596	2,980
小 計	7,950	6,654	3,236	17,840
仕損費	—	3,236	△3,236	—
合 計	7,950	9,890	0	17,840
備 考	仕掛中	完 成	# 2へ振替え	

【解説】

今回においては個別原価計算の計算方法と仕損の処理が問われています。いずれにせよ、前問同様に勘定連絡図の流れをしっかりと意識し、問題の資料を勘定連絡図の流れに沿って見るようにしましょう。また、帳簿上の仕掛品勘定は1つですが、個別原価計算においては製造指図書ごとに仕掛品勘定があると考えたとよいでしょう。

【資料1(1)】 材料(主要)

前月20kg @100	直接費70kg×@120
当月80kg @125	棚卸減耗2kg×@120
	月末実地28kg

【資料1(2)】 材料(補助)

前月 200	当月消費額 500
当月 800	月末 500

【資料2】 賃金

当月支払 7,100	前月末払 400
当月未払 500	当月消費額 7,200


$\frac{7,200}{8時間+2時間} = \text{消費賃率720円/時間}$

【資料3】 経費(外注加工賃)


当月支払	前月末払
当月未払	当月消費額700

【資料3】 経費(減価償却費)

年間発生額 9,600	当月発生額 800
-------------	-----------

【資料4】 仕掛品(#1) 

材	料3,600	次月繰越7,950
賃	金2,160	
経	費 700	
製造間接費	1,490	

【資料4】 仕掛品(#2) 

材	料3,600	製品 9,890
賃	金2,160	
製造間接費	894	
仕掛品	3,236	

#2へ振替え

【資料4】 仕掛品(#2-1)

材	料1,200	仕掛品 3,236
賃	金1,440	
製造間接費	596	

注: 仕損費勘定を設けず直接仕掛品勘定へ振替える場合もあります。

製造間接費

棚卸減耗費 240	実際配賦 2,980
間接材料費 500	2,980
間接労務費1,440	5時間+3時間+2時間
間接経費 800	=配賦率298円/時間

解法のアドバイス!

問題を解くときは、①費目別計算→②製造間接費の配賦計算→③製品別計算という流れで解くとよいでしょう。このとき、特に直接費と間接費の流れの違いを意識するようにしましょう。直接費はどの製品にいくらかかっているのか個別に計算できる費用ですので、仕掛品勘定に直課します。これに対し、間接費はどの製品にいくらかかっているのか個別に計算できない費用ですので、いったん製造間接費勘定に集計し、そこから仕掛品勘定へ配賦をします。

当工場では第1工程の始点でA材料を投入し、第2工程の終点でB材料を投入し、両工程の加工を経て製品を大量生産している。原価計算の方法としては、工別総合原価計算（累加法）を採用している。下記資料に基づき、以下の問に答えなさい。

問1：完成品原価および月末仕掛品原価、異常仕損費の金額を計算しなさい。

問2：仕掛品勘定を記入しなさい。

（資料1）生産データ

第1工程		第2工程		
月初仕掛品	20個（50%）	月初仕掛品	10個（50%）	
当月投入量	<u>100個</u>	当月投入量	<u>90個</u>	
合計	120個	合計	100個	
正常減損	10個（10%）	異常仕損	10個（80%）	（注）正常減損の負担計算は 度外視法による。 （ ）は加工進捗度 を表す。
月末仕掛品	<u>20個（50%）</u>	月末仕掛品	<u>20個（50%）</u>	
完成品	<u><u>90個</u></u>	完成品	<u><u>70個</u></u>	

（資料2）原価データ

第1工程月初仕掛品原価		第2工程月初仕掛品原価	
原料費	1,500円	前工程費	2,400円
加工費	880円	加工費	280円

当月製造費用の計算

1、材料費の計算

（1）A材料の購入及び消費は以下のとおりであった。

- ・前月繰越分20kg 単価100円
- ・当月購入分80kg 単価125円
- ・当月消費量70kg 単価？円
- ・月末実地棚卸数量28kg

なお、主要材料の消費額の計算は継続記録法による平均法によって行なう。
また、棚卸減耗は正常な範囲であった。

（2）B材料の購入及び消費は以下のとおりであった。

- ・前月繰越分200円
- ・当月購入分800円
- ・次月繰越分500円

なお、B材料の消費額の計算は棚卸計算によって行なう。

2、労務費の計算

第1工程直接工および第2工程直接工の賃金支払い及び消費額は以下のとおりであった。

- ・当月の賃金支払いは、賃金支給総額7,100円、所得税控除額200円
社会保険料控除額700円であった。
- ・前月末払分400円、当月未払分500円がある。
- ・当月の各直接工の作業時間の内訳は以下のとおりである。
直接作業時間：8時間（うち第1工程直接作業時間4時間、第2工程直接作業時間4時間）

3、その他の費用の計算

上記以外にも以下のような費用がかかった。

- ・工場建物減価償却費年間予定総額9,600円

なお、製造間接費の配賦計算は直接作業時間を配賦基準とする実際配賦の方法によること。

【解答欄】

問 1

第 1 工程仕掛品		第 2 工程仕掛品	
月初仕掛品 ()	第 2 工 程 ()	月初仕掛品 ()	製 品 ()
材 料 ()	月末仕掛品 ()	前工程費 ()	異常仕損費 ()
賃 金 ()			月末仕掛品 ()
製造間接費 ()			

【解 答】

問 1

第 1 工程仕掛品		第 2 工程仕掛品	
月初仕掛品 2,380	第 2 工 程 12,600	月初仕掛品 2,680	製 品 14,500
材 料 8,400	月末仕掛品 2,300	前工程費 12,600	異常仕損費 1,900
賃 金 3,600		材 料 500	月末仕掛品 3,500
製造間接費 520		賃 金 3,600	
		製造間接費 520	

問 2

第 1 工程月末仕掛品原価 2,300円 第 2 工程月末仕掛品原価 3,500円
 第 1 工程完成品原価 12,600円 第 2 工程完成品原価 14,500円
 第 2 工程異常仕損費 1,900円

【解 説】

原価計算の方法としては、個別受注の生産形態に適用される個別原価計算(前問)と大量見込み生産に適用される総合原価計算(本問)の2つがあります。そして、この計算に標準原価を適用するものが標準原価計算、変動費だけで計算するものが直接原価計算となります。日商簿記検定1級の工業簿記・原価計算の問題では、製品原価の計算と帳簿記入が問われます。よって、この2つの観点を意識して学習するようにしましょう。なお、本問においては、複数の材料が投入され、かつ減損と異常仕損がでています。このような問題の場合、いきなり解き始めるのではなく、まずは進捗度の図解を書くなどして、生産状況の概要を確認するようにしましょう。工業簿記の総合問題や原価計算の問題では「複雑な資料をいかに整理できるか」という点がポイントになります。ぜひ、本問をとおしてそのような視点を理解するようにして下さい。

2、本試験の出題パターン

日商簿記検定1級の工業簿記・原価計算は公認会計士試験の学習で参考になるほどよくできていますし、考えさせる問題が多いのが特徴です。このため、常に高得点を取るのには難しい科目でもあります。このような工業簿記・原価計算ですが、問題の出題傾向としては、①知識型の基本問題 ②現場思考の応用問題の2つが出題されます。

ちょっとステップアップ

【参考】日商簿記検定1級工業簿記・原価計算の出題傾向

知識型の基本問題

知っていれば解ける、得点源となる問題

←この問題を確実に
得点できるように
練習する

現場思考の応用問題

基礎知識を使って解く、応用的な問題

①知識型の基本問題は、テキストや問題集、専門学校で答練で解いたことのあるレベルの問題です。このような問題は、知っていれば解けますし、知らなければ解けません。ということは、知っていれば解けるわけですから、このレベルの問題は得点源となります。これに対し、日商簿記検定1級で最も難しいのが②現場思考の応用問題です。このレベルの問題は、試験会場で初めて目にする初見の問題であり、基礎知識を使ってその場で考えて解くこととなります。このため、解けるとときには解けるが、解けないときには全く解けないというリスクのある問題となります。

3、現場思考の応用問題対処法

現場思考の応用問題を常に完璧に解けるようにするのは、非常に難しいものがあります。しかし、ある程度は解けるようにする方法はあります。その方法とは、耳にタコができるほど専門学校の先生に言われたかもしれませんが、「理解すること」です。「なあ～んだ、そんなことか・・・。」と思われたかもしれませんか。

しかし！このことは、商業簿記・会計学を学習するうえでも重要です。また、経理やコンサルティングなどの仕事や、さらに会計士や税理士などの上級の資格を狙うときにも重要なことなのです。

ここでは、その「理解する」ということについて、以下の設例を使ってお話ししたいと思います。

基本例題Ⅱ-4

＜理解することの意味＞

当工場では工程の始点でゴムボールを投入し、それに色を塗ってカラーボールを作っている。
以下の資料に基づいて各問いに答えなさい。

＜資料1＞生産データ

＜資料2＞原価データ

月初仕掛品 0個

当月製造費用

当月投入量 2個

材料費（ゴムボール）：200円 加工費：150円

月末仕掛品 1個（加工進捗度50%）

完 成 品 1個

問1：完成品と月末仕掛品の原価を計算しなさい。

問2：さらに以下の追加資料を加味して、完成品と月末仕掛品を計算しなさい。

＜追加資料＞

当工場ではゴムボールに、工程の流れに沿って工員がペンキを塗ることでカラーボールを作り、工程の終点で箱に詰めて出荷している。このペンキ代および箱代は以下のとおりである。

ペンキ代150円 箱代20円

【解答欄】

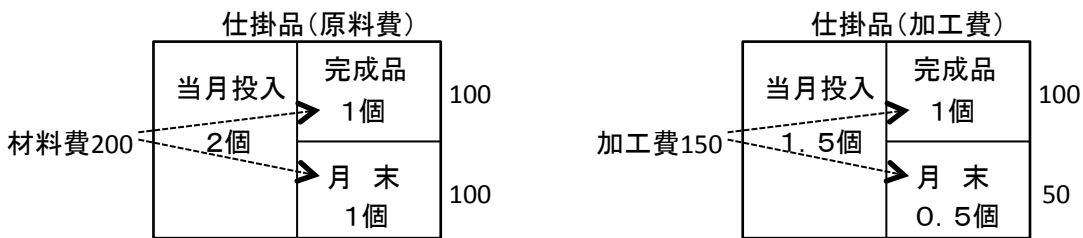
問1 完成品原価 円 月末原価 円
 問2 完成品原価 円 月末原価 円

【解答】

問1 完成品原価 円 月末原価 円
 問2 完成品原価 円 月末原価 円

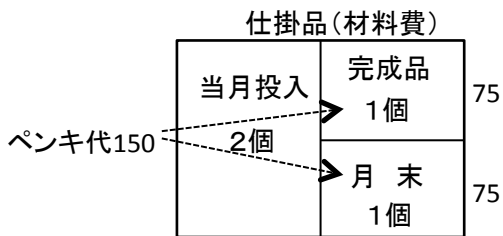
【解説】

問1
 こちらの問題は、簿記検定試験2級レベルの基本問題ですよね。材料費は数量の比で完成品と月末仕掛品に配分し、加工費は進捗度を加味した加工換算量の比で完成品と月末仕掛品に配分すればいいわけです。なお、このタイプの問題は知っていれば解けますし、知らなければ解けない知識型の問題といえます。

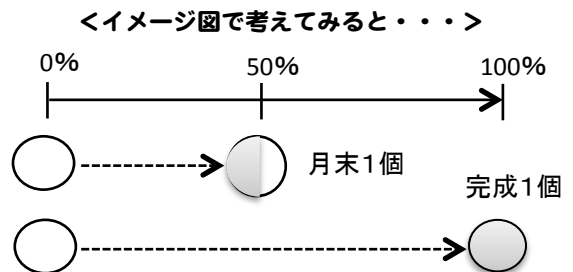


完成品原価:原料費100+加工費100=200
 月末仕掛品原価:原料費100+加工費50=150

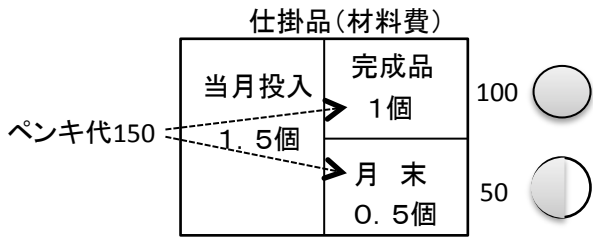
問2
 こちらは応用問題となります。まず、ペンキ代150円をどのように完成品と月末仕掛品に配分するかが問題となります。ペンキ代は材料費に分類されます。簿記検定2級の学習では、「材料費は数量の比で按分」習っていますので、その記憶をもとに完成品と月末仕掛品に配分したとします。



上記計算では、ペンキ代150円が完成品と月末仕掛品に均等に配分されています。これは、正しい計算なのでしょうか？



イメージ図で考えてみると一目瞭然ですよね。月末仕掛品は半分しか色を塗っていないのでペンキ代は完成品の半分しかかかっていません。ということは、進捗度を加味して配分計算すべきということが分かります。

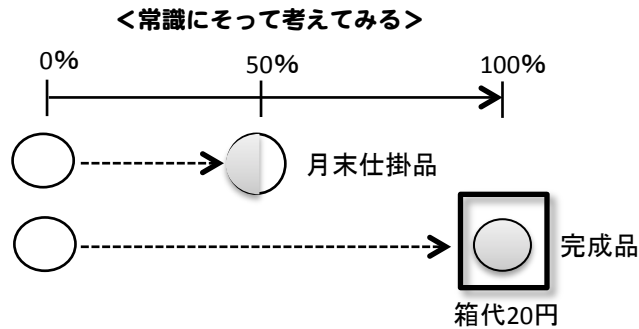


このように、材料費(ペンキ代)といえども、加工が進むにつれて投入(塗られて)されていく場合、「数量の比」ではなく、加工費と同じように、進捗度を加味した「加工換算量」で配分すべきということになります。

1級工業簿記では、このような現場で考えさせる問題が出題されますので、まずは「常識的に考える」ということ、そして、「どうしてこのような計算になるのだろうか？」と常に考えるようにしましょう。

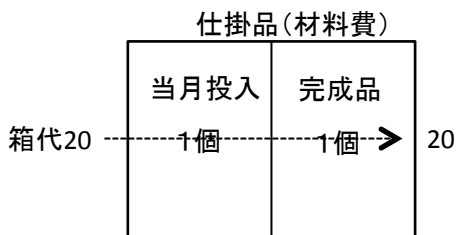
次に終点で投入される箱代の計算です。

この工場では、完成品のボールを箱に詰めて出荷しています。では、この箱代(材料費になります)はどのように計算すればいいのでしょうか？「そんなのテキストに載ってたかな・・・」ではなく、ご自身が原価計算担当者になったとして、「常識的に」「論理的に」考えてみてください。



上記のイメージ図で考えてみれば、もうお分かりになりますよね！

そうです。箱代は完成品にしかかかっていません。よって、月末仕掛品と完成品との配分計算は必要なく、箱代はそのまま完成品の原価として計算します。



完成品原価: 原料費(ゴムボール)100+ペンキ代100+箱代20+加工費100
=320

月末仕掛品原価: 原料費100(ゴムボール)+ペンキ代50+加工費50=200

このように、簿記検定1級の工業簿記では、習得した知識を使ってそれを応用させるという問題が出題されます。例えば、ゴムを下請業者に外注に出してから、ゴムボールとして受取り、これを加工して完成品のボールとした場合はどうでしょうか？また、ペンキを当工場で製造し、そのペンキを使ってゴムボールを加工(色塗り)している場合はどのような計算、勘定連絡図の流れになるのでしょうか？

こういった感じで、応用的な問題はいくらでも作れます。このため、問題の全パターンを潰すという学習方法は合理的でなく、応用力をつけるために「常に考えながら」テキストを読んだり、問題を解く必要があるのです。

よって、まずはテキストに載っている「基本の計算の考え方」を理解し、記憶してください。そして、「どうしてこのような計算になるのか？」常に考えてください。そのうえで、問題集や過去問にあたることで応用力をつけるとよいでしょう。



ビジネスゲームで経営と会計に力を

M-Cass

簿記会計





日商簿記 2 級合格コース

簿記検定試験の種類

簿記 2 級の検定試験には、①日本商工会議所主催の日商簿記検定試験、②全国商業高等学校主催の全商簿記検定試験、③全国経理学校協会主催の全経簿記検定試験の 3 種類があります。本コースは、その中でも最も受験者の多い（平成 27 年度は 54 万人が受験）日本商工会議所主催の簿記検定試験向けのコースです

最近の日商簿記検定

最近の日商簿記 2 級検定試験は、平成 27 年から平成 30 年 4 月において大きく出題範囲が改訂されました。その内容は、従来簿記 2 級の出題範囲であった特殊商品売買や、社債等が簿記 1 級に昇格した半面、元々簿記 1 級の出題範囲であった項目が多数簿記 2 級の出題範囲に反映されました。

最近の日商簿記 2 級検定試験結果

	申込者	実受験者	合格者数	合格率	合格率（熊本）
149 回	52,694 名	38,352 名	5,964 名	15.6%	12.0%
148 回	65,560 名	48,533 名	14,384 名	29.6%	19.0%
147 回	63,757 名	47,917 名	10,171 名	21.2%	16.9%
108 回	76,603 名	59,904 名	28,083 名	46.9%	—

最近の日商簿記 2 級検定試験は、平成 27 年以降の出題範囲の改訂より、合格率が約 20%前後と以前の検定試験合格率約 40%と比較しても約半分の合格率となっています。原因として考えられるのが、出題範囲が改訂前より広くなったことなどと思われます。

【質問】では、最近の日商簿記2級検定試験に合格することは困難なのでしょうか？

【解答】いいえ。そのようなことはありません。不合格者が多い原因は、学習の消化不良によるものです。以前より出題範囲が多くなったことで、学習範囲のほとんどを消化することない上に、さらに学習した範囲もしっかりと定着することなく、受験してしまうからなのです。

簿記2級の出題範囲(主な変更点)

- ①外貨建取引
 - ②リース取引
 - ③ソフトウェア
 - ④税効果会計
 - ⑤連結会計
- 等があります。

簿記検定1級の出題範囲が2級に入った結果、**難化傾向にあり社会人が合格しづらくなっています。**

よって、当コースでは

「消化不良をなくすカリキュラム」と「知識を定着化させるスパイラル学習」を実施して

いき、「**本質理解**」による「**短期合格**」を目指すことができます。

～合格までの道のり～

学 習 ス ケ ジ ュ ー ル						
1 か月目	2 か月目	3 か月目	4 か月目	5 か月目	6 か月目	本試験
合格コース (反転授業によるライブ講義)						日商簿記検定
商業簿記 週 2 回		工業簿記 週 2 回		試験対策 週 1 回		
本科コース				答練コース		

商業簿記本科全20回・工業簿記本科全16回・試験対策全10回の合計46回(Web講義)のコースです。

最近の日商簿記2級検定試験では、商業簿記の分量が多くなっているため、工業簿記より講義が多めになります。

経験豊富なベテラン講師陣

開講講座



平井 孝道 Takamichi Hirai
日本公認会計士準会員/公認会計士試験合格
専修大学経済学部経済学科卒業。㈱TAC日商簿記検定3級講座・税理士試験簿記論講座の講師を5年、その後独立。㈱リンクアカデミー資格スクール大業にて簿記検定1級講座の全国配信専任講師を15年勤める。また、公認会計士業務として上場企業の内部統制構築・運営のコンサルティング業務、地方自治体包括外部監査、学校法人監査、社会福祉法人の経理システム導入指導などに従事。公認会計士業務での実務経験から、「決算書の数字が読める、活かせる」ようになるビジネスゲームを開発、ビジネスゲームを使ったビジネスパーソン向けセミナーの全国普及を目指す。

合格コース (46回)

75,000円 (税込)

本科コース (36回)

53,000円 (税込)

答練コース (5回)

32,000円 (税込)



高木 昭宏 Akihiro Takaki
税理士試験会計科目/日商簿記1級/建設業経理士1級等合格
熊本大学大学院修了。専門学校や大学・企業にて簿記検定講座やファイナンシャルプランニング講座等で講師を20年以上担当。「本質理解」を目指し、知りたい知識を覚えるのではなくスツと体にしみこむような指導法で多くの資格取得者を輩出する。また、会計知識を活かす趣味の株式投資における幅広い知識と鋭い分析力にも定評がある。



ビジネスゲームで経営と会計に力を

M-Cass

時間に制約のある金融機関の方々が 確実に成果を出す

M-Cass独自の学習メソッド



アクティブ・ラーニング

座学である受動学習は非常に学習効率が悪いことから、当社ではビジネスゲームやワークなどを使った能動学習を主体とします。

反転授業

日頃の基礎知識のインプットは自学習で済ませていただき、定期的に教室に来ていただいたときに、発展、応用や解答戦略など実践的な内容を学習していただきます。

学習方略

自己流の不合理な学習方法を科学的で戦略的な学習方法に改めていただき、確実に成果の出る学習方法をマスターしていただきます。

問い合わせ先

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原 2081-10 株式会社 M-Cass
TEL:096-289-7200 FAX:096-300-3355 MAIL:hirai@m-cass.co.jp